

あなたの支援が 子どもたちの巣立ちを支えます。

ご不要になった本や未使用の家庭用品、
使わないポイントなどでもご支援いただけます。

継続寄付会員

1日約100円
1年間の継続支援

古本などの寄付

不要になった本、CD
ゲームなど [送料無料]

一般寄付

いつでも自由な金額で

ポイントの寄付

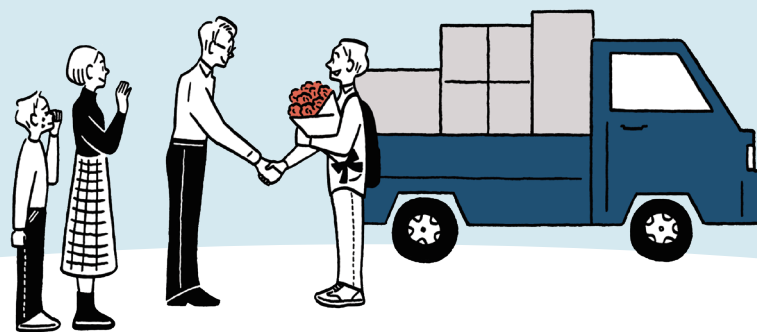
使わないVポイントやベネポイントで

遺産などの寄付

相続財産やお香典
遺言により遺贈寄付

生活必需品の寄付

家庭にある新品や物品購入で



親を頼れないすべての
子どもが
笑顔で暮らせる社会へ

一緒に応援しませんか

子どもたちの巣立ちをご寄付により支えてください。
ブリッジフォースマイルへのご寄付は、税制優遇の対象になります。
ご寄付のお申し出は、電話、メール、ウェブサイトにて承ります。



Tel: 03-6842-6766 (平日10時-18時)

Email: info@b4s.jp

URL: <https://www.b4s.jp>

認定NPO法人ブリッジフォースマイル
〒107-0062 東京都港区南青山 3-1-30
PASONA SQUARE
東京都認定NPO4 生都管第1117号

Annual Report 2025



認定NPO法人ブリッジフォースマイル

TOPICS

初めての「インパクトレポート」を作成

ブリッジフォースマイル(B4S)の設立以来、初めて「インパクトレポート」をまとめました。「インパクト(ソーシャルインパクト)」とは、B4Sが取り組んでいる活動が、社会的にどのような効果をもたらしているかを客観的な指標により測り、成果を可視化したものです。インパクトレポートでは、データだけでなく支援を受けた若者の声と合わせて掲載し、数字では表せない活動の意義を立体的に理解していただけるようにしました。

2020年から社会的インパクトの可視化に取り組んできましたが、苦難の連続でした。自立とはそもそもどのような状態か、日常の様々な経験が与える影響と支援の効果をどのように切り分けたら良いのか等、喧々諤々の議論の末ようやくB4Sのロジックモデル(事業目的とそれを達成するための手段との論理的な因果関係を一枚の表に整理した設計図)が完成。その後も何度も修正を重ねて、いまに至っています。

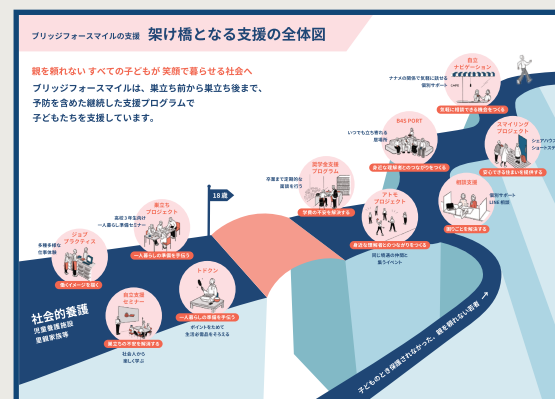
団体内でもソーシャルインパクトマネジメント(SIM)導入により、意識の変化が生まれてきました。やること・やらないことの判断をするときに、ロジックモデルを意識しながら考えたり、期待したような成果が出ていないと

きに運営方針を見直すようにもなりました。例えば、巣立ち後の生活に向けて「不安を減らす」ことを目指しているのに「不安が増している」という結果を受け、不安を煽ってしまっていないか、自分たちのプログラムを検証する機会になりました。

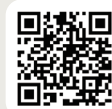
これからも、私たちの支援がどのように若者の安心や前向きな一歩につながっているのかを可視化し、よりよい支援を行うために活かしていきます。



理事長 林恵子



インパクトレポートに関する記事は、ウェブサイトからお読みいただけます。



熊本で【紡ぎ織りなすフォーラム】を開催

事業開始から6年目を迎えた熊本事務局では、親を頼れない若者たちの自立を考える【紡ぎ織りなすフォーラム 地域で支える若者の未来】を9月28日に熊本城ホールで開催し、137名の方にご参加いただきました。(他、オンライン参加もあり) こうの通りのゆりかご当事者・宮津航一さんと、当時認可を決断した元熊本市長・幸山政史さんの初対談「フツウの自立と何が違う？」には大きな反響があり、複数の報道機関にも取材いただきました。行政受託の自立支援拠点事業も3期目の委託が決まり、地域に根ざした支援体制をさらに強化していきます。



フォーラム終了後、取材を受ける宮津さんと幸山さん

活動の継続と発展が認められ「エクセレントリーダー賞」を受賞

「若者力大賞」※では、活動を継続拡大している過去の受賞者から選ばれる【エクセレントリーダー賞】が2025年に新設され、B4Sはその第1回目の受賞団体として、表彰されました。ちょうど団体が20年目を迎えたこの節目で、継続した活動をご支持いただき励みになりました。

※若者力大賞…公益社団法人日本ユースリーダー協会が主催する、自由な発想力とチャレンジ精神をもって、様々な社会的活動に従事するユースリーダー(次世代リーダー)とそのようなユースリーダーの育成や支援に努力する個人・団体を発掘し、表彰することを通じて、これからの日本の若者を育成する意義を広く社会に啓発することを目的とした公益事業。B4Sは2013年に【第4回ユースリーダー支援賞(団体部門)】を受賞。



林恵子による
受賞スピーチはこちら



神戸市より「困難をかかえるこども・若者の自立に関する実態と支援方策の調査」を受託

神戸市からお預かりしたアフターケア対象者の既存資料をもとにケアリーバーの生活実態や支援介入状況などを分析しました。また主に、神戸市内の児童養護施設等退所者(ケアリーバー)を支援している職員に向けて、アンケート調査とヒアリング調査を行いました。市内全施設から100%の回答を得て、退所後の生活実態や支援の現状を可視化することができました。

これらの分析結果をもとに、市内の児童養護施設等の職員や有識者とワークショップを開催しました。非常に活発な意見交換の場となり、金銭管理のつまづき、就労の不安定さ、メンタル面の課題など、全国的にも共通する構造的課題が明らかになりました。

また、SOSを出せる信頼関係の構築の重要性や、自己認識やメンタル面のサポート、達成意欲をはぐむ支援の必要性などを整理し、その調査結果を踏まえて、神戸市における自立支援の強化に向けた事業案を提案しました。

B4Sでは「神戸市社会的養護自立支援拠点事業運営業務」の受託も確定し、2026年初夏に居場所の開設が決定しています。



巣立ち支援による実績

2025年度は、前年度にはじまった、親を頼れない環境下にありながら「社会的養護未経験」の方まで対象を広げた相談支援活動を強化しました。居場所の利用のべ数は2倍以上となり、子ども・若者たちの拠り所となっています。

高校3年生向け一人暮らし準備セミナー

巣立ちプロジェクト

参加高校生 **263** 人

東京・北海道・熊本・佐賀で実施



ポイントをためて生活必需品をそろえる

トドクン

仲介商品 **708** 点

商品の種類 244 種

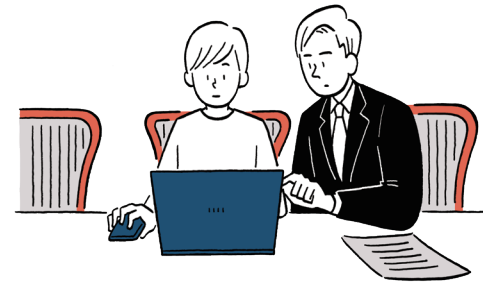
仲介金額 528 万 6 千円相当



働くイメージを描く仕事体験

ジョブプラクティスセミナー

実施回数 **16** 回・参加者のべ**129** 人



※セミナー：短時間でオンライン開催もあり、気軽に参加できる。

数日間の仕事体験で自分の興味や得意を知る

ジョブプラクティスデイズ

受け入れ協力企業数 **41** 社・参加実人数 **97** 人



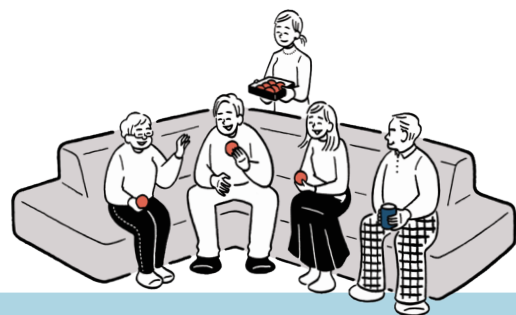
※デイズ：数日間、一人で仕事現場現地まで通う。

身近な理解者と繋がる＆いつでも立ち寄れる居場所

B4S PORT

居場所・イベント参加者のべ**4,846** 人

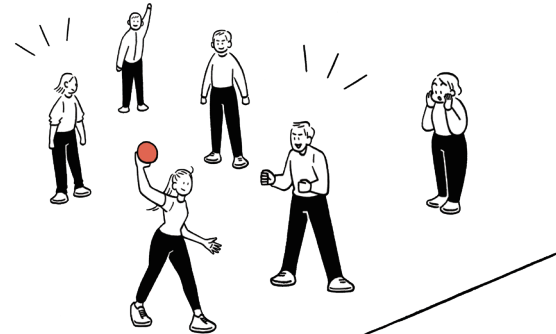
B4S PORT 5カ所（よこはま、さが、くまもと、しもきた、あきば）



同じ境遇の仲間と集うイベント

アトモプロジェクト

イベント開催回数 **29** 回・参加退所者のべ**174** 人



社会人から楽しく学び巣立ちの不安を解消する

自立支援セミナー

実施回数 **125** 回・参加者のべ**886** 人

東京、佐賀、熊本で実施



仲間と共に暮らすシェアハウスや緊急避難的に生活できる
ショートステイ事業

スマイリングプロジェクト

シェアハウス **2** 軒 入居者 **6** 人

ショートステイ **2** 軒 利用者 **17** 人

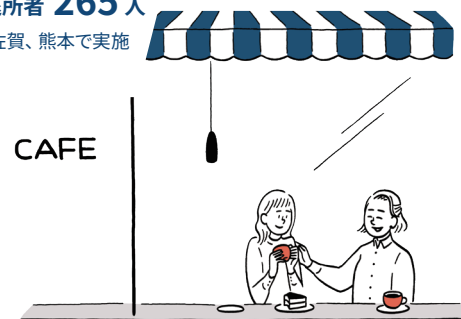


ナナメの関係で気軽に話せる個別サポート

自立ナビゲーション

利用退所者 **265** 人

東京、佐賀、熊本で実施



学費の不安解消と卒業まで定期的な面談を行う

奨学金支援プログラム

奨学生 **27** 人、協力企業 **3** 社



困りごとを解決するための個別サポート・LINE相談

相談支援

相談件数 **8,833** 件・実人数 **1,287** 人



各プロジェクトの詳細は、
ウェブサイトでお読みください。



当事者インタビュー

頼る場所は、必ずどこかにある—と思っています



ショウさん

B4Sとの出会いは5年前

現在20歳の「ショウさん」は、小学5年生のときに児童養護施設に入り、特別支援学校高等部の卒業と同時に施設を退所しました。現在は東京都の「通勤寮」で生活しながら働いています。

ブリッジフォースマイル(B4S)との出会いは高校1年生だった5年前。「金銭管理」「ネットリスク」に関するオンラインセミナーがきっかけでした。「講師がとにかく面白い人で、毎回爆笑しながら参加していたのを覚えています」と振り返ります。

B4Sのセミナーに「楽しい!」という印象を持っていたショウさんは、高校3年生の夏に開催された巣立ちプロジェクトにも参加しました。

巣立ちプロジェクトは、児童養護施設や里親家庭からの巣立ちを控えた高校3年生を対象としたプログラムで、引っ越しの手続きや金銭管理、危険から身を守る方法、健康管理、性教育など、一人暮らしに必要な知識やスキルを、多くの社会人ボランティアのサポートを受けながらワーク形式で学びます。

「ボランティアの人が、僕の話がたくさん聞いてくれたのが本当にうれしかったです。高校で学んでいること、将来のこともたくさん話しました。高校では、ビルクリーニング技能士の資格を取ったんですが、ある時、東京都のイベントで技能の実演をすることになったんです。そのイベントにも来てくれて、とてもうれしかったです」

後輩に「巣立ちは絶対参加した方がいい」とレコメンド

高校3年生の秋ごろは、就職活動への不安があったり、学校の先生との関係がぎくしゃくしたりと、「しんどいこと」もありました。「でも、施設の職員さんたちが味方になってくれたことと、巣立ちプロジェクトが楽しかったおかげで何とかやりすごせました」と話します。施設では、1学年下の子に「高校3年生になったら絶対(巣立ちプロジェクトに)参加した方がいい。あなたのためになるから」と勧めてくれたそうです。

居場所は「心細くなったとき足が向く場所」

ショウさんは児童養護施設を退所する前に、施設の支援を受けながら短期間、アパートで一人暮らし体験をしたそうです。「そこで、施設を出てすぐに働きながら一人暮らしをするのは、僕には難しいとわかりました」。そのため、東京都の自立訓練施設である通勤寮で2～3年間

生活しながら準備をしたうえで、グループホームに移るという見通しを立てました。

「通勤寮は、知的障がいを持つ人が、職員の支援を受けながら生活スキルを学び、自立の準備をするところです。ここでの生活では、巣立ちプロジェクトで学んだことも、

かなり役に立ちました」

施設退所後は、バーベキューパーティーや、ボルダリングなど、児童養護施設や里親家庭を巣立った仲間たちと社会人ボランティアが集まるB4Sのイベント「アトモプロジェクト」にも参加。また、最近転職し、仕事が忙しくなったため少し頻度が減りましたが、B4Sの居場所「B4S PORT」もよく利用しました。

B4S PORTは、さまざまな理由で親を頼れない若者が、気軽に立ち寄れる場所です。

「僕はよく、ゲームをしたり、スタッフやほかの利用者と話したりしていました。通勤寮は食事が出るので、あまり料理をする機会がないんですが、僕は料理が好きなので、B4Sの居場所では料理を手伝ったりするのも楽しかったです。信頼できるスタッフやボランティアもいるし、これから心細くなったときに行くと思います」



インタビューに答えるショウさん

困ったことはすぐに相談。周りの支えのおかげで今がある

ショウさんは自分の障がいについて、「2つ以上の情報の処理が一度にできず、臨機応変な対応やマルチタスクが苦手。例えば仕事の指示で『今日はまずこれとこれをして、その次にこれをして』と一度に言われると、混乱してフリーズしてしまいます」と説明します。仕事や人間関係でつまずきがあると、どんどんマイナスに考えてしまい、気持ちの切り替えができないという傾向もあるそうです。

しかし最近では、悩みや困ったことがあると、B4Sの居場

所のスタッフやボランティア、通勤寮の職員に相談し、一緒に対処方法を考えることで、「気持ちの切り替えができるようになったし、自分を客観視して、『次はこうしよう』と前向きに考えられるようになってきた」といいます。『『職場の人に、悪口を言われた』と落ち込んだときにも、すぐに周りの人に相談しました。アドバイスが役に立つ時もあるけど、話しているうちに自分で解決の糸口を見つけられることもある。壁にぶつかった時に、周りの大人に相談して支えてもらってきたお陰で今がありま

受援力、「僕にはあると思う」

児童養護施設で暮らす子どもたちの中には、それまでの虐待などの経験から、大人への強い不信感を抱え、退所後に生活や仕事などで困ったことがあっても誰にも相談できず、苦しむ人も少なくありません。

しかしB4Sでは「自立とは、自分1人で何でもできるようになることではない」と考え、「受援力」を重視しています。受援力とはもともと、災害時に外部からの支援をスムーズに受け入れるための知恵として提唱されたもので、困ったときに誰かに助けを求めたり、支援を受け入れたりする力を指しています。

不安はあるけど、きっと大丈夫

ショウさんは、来年春には現在生活している通勤寮を出て、グループホームに移ることになっています。「もちろん不安はあります」と言いますが、「通勤寮に入った時も、最初は職員さんとあまり話せなかったのが、今ではいろいろ相談できるようになりました。だから、今度もきっと大丈夫だと思います」と前向きです。

楽しいこともたくさんあります。「B4Sのイベントも、楽しそうなものがあればぜひ行きたいです。新しい仕事もちゃんと続けて安定させたい。働いてお金を貯めて、

ゲームを買ったり、友達と出掛けたりもしたいです。猫が好きなので、猫カフェにも行きたいな」

居場所では、ほかの利用者にも声をかけて一緒にゲームをしたりと、周りの人を自然に巻き込んで楽しむのが上手なショウさん。これからも、B4Sのイベントや居場所で、元気な姿を見るのを楽しみにしています。そして、これからもずっと「いざという時に頼れるところ」の中に、B4Sを入れておいてくれるとうれしいです。

親を頼れない子どもたちの自立を支えて **20** 年

支援した子ども

9,200人

巣立ちプロジェクト

2,740人

事業所

6 都道府県

始まりは→偶然／運命
「できるかも。」という衝動

Start

理事長の林恵子著書「できるかも。」(英治出版)に赤裸々に書いてある通り、出産を機に仕事と子育ての両立に悩む林が、スキルアップを目指して2003年にビジネス研修プログラムに参加したことが、ブリッジフォースマイル(B4S)の誕生のきっかけとなりました。

ビジネス研修のチーム活動で、「企業が「孤児院」を支援するためのCSRプログラムを企画提案する」という課題を与えられ、「孤児院」は、現在児童養護施設と呼ばれるようになっているという初歩的な事から調査はスタートしました。当時はインターネット上にも情報がほとんどなく、林は児童養護施設へ直接ヒアリング調査に出向きます。

研修の課題としてビジネスプランを発表するところまでで終わる予定でしたが、児童養護施設の「悲鳴」ともいえる現場の状況を知ってしまった以上、見て見ぬふりはできませんでした。「自分」にできることがある。誰もやらないなら自分がやるしかない」とNPO設立へ人生の舵を切ったのです。

この衝動から21年、たくさんの挑戦と失敗を繰り返して、できることを増やしてきました。いまでは全国の仲間とともに支援を続けています。

VISION

親を頼れないすべての子どもが
笑顔で暮らせる社会へ

MISSION

Bridging to the Future

親を頼れない子どもたちが、
社会へ羽ばたく時に直面する
「安心の格差」と「希望の格差」を乗り越え、
未来へ向かう勇気を持てるような
支援をカタチにする

18歳の自立の壁は、思っていたよりもずっと高く険しいものでした。それでも私たちは、若者のそばで声を聴き、社会との架け橋をつくり続けてきました。若者たちがいつでも帰ってこられる『街』のような支援を、これからもみんなで広げていきます。

理事長 林 恵子

すべては、親を頼れない子どもたちのために ブリッジフォースマイル

PHASE 01 設立・支援スタート

2004-07

最初の一步、東京から

2000年の児童虐待防止法制定がきっかけで児童虐待に対する認知が広まりはじめる。2004年の児童福祉法改正で、自立支援が明記される

寄付品仲介

「15〜18歳で何も持たずに施設から社会に出る子どもたちに、一人暮らしに必要な生活品を届けたい」と開始

巣立ちプロジェクト

退所を控えた高校生に一人暮らし準備セミナーを開始



アトモプロジェクト

孤立しがちな退所者が集まれるイベントを開始

ジョブプラクティス

中学生を対象にした仕事体験プログラム
※のちに対象を中高生に拡大



Reflection

子どもたちの厳しい現実を知れば知るほど、早く支援を形にしなければと焦るばかりの毎日でした。

PHASE 02 支援の拡大

2008-10

協力者と新しい支援をカタチに

退所後支援の必要性が初めて国の文書「社会的養護の課題と将来像」に明記

有料ボランティア研修

マンツーマン支援の自立ナビゲーションをスタートするために研修(現スキルアップ研修)を開始

自立ナビゲーション

メンターによる個別伴走を本格導入



出張セミナー

施設に出向き自立支援セミナーを実施

スマイリングプロジェクト

一軒家をシェアハウスにして住宅支援を開始



ハンドブック

一人暮らしに必要な情報をまとめたハンドブック
「巣立ちのための60のヒント」を明石書店から出版

Reflection

内閣府から認定をうけ、認定NPO法人に。寄付促進への大きな足掛かりとなりました。

PHASE 03 地域展開

2011-16

首都圏以外の地域へ展開

2012年児童養護施設等の小規模化・家庭的養護の推進、2016年児童福祉法改正・施設養育から家庭養育優先、里親・養子縁組の推進へ

カナエール

児童養護施設退所者が、大学などへの進学を夢をかなえる奨学金支援プログラムを開始



自分の夢を語るスピーチコンテストは、東京、横浜、福岡で開催。社会に「児童養護施設の子どもの進学問題」を提起する大きなきっかけとなった。のちに、国の給付型奨学金制度が整い、カナエールは2017年に終了

居場所

横浜市から退所後支援を受託。横浜駅近くのマンションの一室で居場所事業を開始



地域拠点の開設

佐賀県、熊本県に事業所を立ち上げ、地域に根ざしたモデルを創出

Reflection

当事者が自分の言葉で夢を語り、社会に支援を訴えたカナエールの経験は、社会は変えられると勇気をもらいました。

PHASE 04 事業の見直し

2017-22

啓発と行政連携強化

2017年厚生労働省は「新しい社会的養育ビジョン」を策定。自立支援の必要性も明記され社会的養護経験者支援が国家的テーマに

コエール開始

子どもをとりまく社会への問題提起と解決に向けて実行にうつす啓発プログラム



トドクン

セミナーに参加したポイントで寄付がもらえる寄付仲介サイト運用開始。システム構築費は、初めてのクラウドファンディングで資金調達



コロナ禍緊急支援

社会的養護出身者を家賃補助、オンライン相談などで支援。6600万円をこえる寄付金が集まる

全国施設退所者トラッキング調査

2008年から実施してきた調査を大幅に見直し、退所者を10年間追跡する調査を開始

全国施設職員勉強会開始

オンラインで日本全国の施設職員をつなぐ

Reflection

国の政策が「伴走支援」へシフト。B4Sの活動においても、何を成果とするのか、そのために何をやるのか立ち止まって考える必要がありました。

PHASE 05 政策の真ん中へ

2023-25

虐待サバイバーへの支援拡大

2022年児童福祉法改正により、退所後支援が自治体に義務付けられる。2023年4月こども家庭庁発足。2024年社会的養護自立支援拠点事業が施行され、年齢上限は撤廃、支援対象が虐待サバイバーにまで広がる

受託エリアの拡大

熊本県・熊本市・豊島区・中野区・品川区等で自立支援事業を展開。26年度からは神戸・柏(千葉)の受託決定

居場所を「B4S PORT」で統一

横浜・下北沢・浅草橋・佐賀・熊本で展開



LINE相談支援

若者が使いやすいツールで支援を全国に拡大

緊急ショートステイ

住むところを失った若者が短期で宿泊できる場の運営を東京と横浜で開始



Reflection

若者がいつでも頼り、つながり続けられる温かい仕組みを、全国に!

B4Sが20年間かけてつくりあげてきた
「自立を支える街」

● 巣立ち前支援

一人暮らしの準備を手伝う

巣立ちプロジェクト
高校3年生向け
一人暮らし準備セミナー



自立支援セミナー

社会人から楽しく学ぶ



働くイメージを描く

ジョブプラクティス
多種多様な仕事体験



● 巣立ち後支援

身近な理解者とのつながりをつくる

B4S PORT
いつでも立ち寄れる居場所



気軽に相談できる機会をつくる

自立ナビゲーション
ナナメの関係で気軽に話せる
個別サポート



身近な理解者とのつながりをつくる

アトモプロジェクト
同じ境遇の仲間と集うイベント



子どもを支える大人を増やす 「伴走者の育成」

ブリッジフォースマイルでは、親を頼れない子どもたちへの支援だけではなく、社会全体で子どもを支えられるよう、子どもに関わる大人たち「伴走者」の育成にも力を注いでいます。

社会人ボランティアが安心して支援に臨めるように

2025年度は、支援現場でスタッフが強く必要性を感じてきた二つのテーマで、新たな研修を立ち上げました。一つ目は「障がいを持つ方が使える社会資源の紹介」です。障害者手帳を持つ若者が増える中、どのような環境で生活しているのか、そのリアリティを理解することを目的に、制度の大枠や利用できる社会資源を学びました。支援者が知識を持つことで、若者が必要な支援につながる後押しができます。二つ目は「精神疾患と障がいについての基礎知識」です。虐待の後遺症などでメンタル不調を抱える若者は少なくありません。この研修では、病名を覚えることよりも、支援者が過度に恐れず、安心して関われる心構えや、自分ができること・できないことの線引きを学ぶことを重視しました。

施設職員の明日への活力となる場づくり

さらに、全国の児童養護施設職員とつながる【全国施設職員勉強会】も月1回オンラインで開催しています。互いの実践を持ち寄り、悩みを共有し、明日からの支援に生かせるヒントを交換する場として定着しました。地域によっては横のつながりが乏しく、制度や実践の情報が届きにくい現状があり「ここで得られる学びが支えになっている」との声が寄せられています。

全国施設職員勉強会



北海道から沖縄まで570以上の児童養護施設へお声がけをし、毎回100名前後の職員たちが集っています。「誰に聞いたらよいかわからなかったこと」をこの場で知ることも多くあります。

子どもたちとの関わり



巣立ちセミナー「八王子ランチ」のボランティアメンバー

サンクスフェスティバルの開催



多大なご協力をいただいているボランティアのみなさんに感謝をお伝えする「サンクスフェスティバル」。10年継続者の内、3名の方に表彰式にお越しいただきました。



アトモ運動会

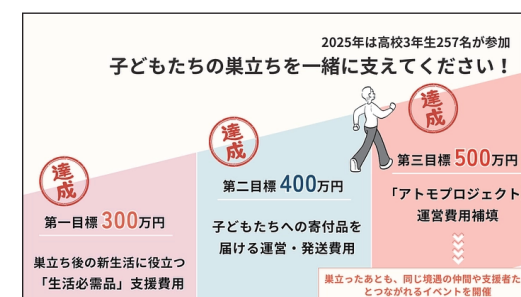
子どもを支える社会をつくる 「広報・啓発活動」

社会的養育への正しい認識と関心を広め、親を頼れない子どもたちが安心して巣立つことができる社会をつくるための啓発活動や調査・研究などを行っています。

より多くの子どもたちに必要な支援を届けるためには、安定した組織運営が不可欠です。事業規模の拡大に伴い、今まで以上に、私たちの活動を支えていただいている、社会人ボランティア・寄付者・協力企業など、応援していただける支援者の方たちの存在が重要になっています。私たちの活動を知ってもらい、応援者になっていただくために、わかりやすい発信に努めていきます。

巣立ちを応援するクラウドファンディング

「実家」というセーフティネットがないまま巣立っていく子どもたちの、新生活を応援するためのクラウドファンディング【児童養護施設等で暮らす子どもたちの「たった1人での巣立ち」を応援!】には、たくさんのご支援をいただきました。第1目標の「新生活の物品寄付— 300万円」は、開始13日で達成となり、第3目標である「アトプロジェクト」運営費も予想以上の応援をいただき、最終的には271名の方に5,920,000円をご寄付いただきました。今回のクラウドファンディングを機会に社会的養護の子どもたちやB4Sを知ってくださった方も多く、ご寄付と共に寄せてくださったメッセージに大変励まされました。今後も啓発面を充実させながらクラウドファンディングを続けていきますので、認知・拡散にご協力ください。



クラウドファンディング
終了報告会
(動画あり)



企業と共に、子どもの未来を支える社会をつくる

日々、多くの企業にB4Sを通して、子どもたちへの支援を行っていただいています。巣立ち支援には、企業にご協力いただくことで実現できることがいくつかあります。特に、仕事体験では、子どもたちの将来における就職のミスマッチを防ぐために、効果的なプログラムです。新たに、企業におけるCSR活動がどのように貴社にとっての価値向上につながるのか、セミナー等で事例を交えながらのご案内を開始しました。



株式会社 JSOLにて、ロボットカーのプログラミング体験とIT業界の仕事を知るジョブプラクティスセミナーを開催



ランチタイムに開催したウェビナーには各企業のCSR担当者さまにご参加いただきました

企業による
支援方法一覧



個別相談も
承っております



ご協力いただいた企業・団体について

2025 年度は 165 の企業・団体のみなさまにバックアップしていただきました。

いつもあたたかいご支援をありがとうございます。(※五十音順・敬称略)

Special Thanks  RBCキャピタルマーケット証券会社	 アドビ株式会社	公益財団法人 SMBC グループ 財団  公益財団法人SMBCグループ財団
 キャリアインキュベーション株式会社	 コクヨ株式会社	 住友商事株式会社
 TOKYO AMERICAN CLUB	 株式会社東京スター銀行	 日本オラクル株式会社
 株式会社 NEXT	 ピクテ・ジャパン株式会社	 一般社団法人ひとり親家庭福祉会ながさき
 公益財団法人三菱財団	 三菱食品 これからの100年基金	 三菱UFJ信託銀行 三菱UFJ信託銀行株式会社
Linklaters 外国法共同事業法律事務所リンクレーターズ		

資金協賛など

RBCキャピタルマーケット証券会社＜資金協賛・助成金, プログラム運営協力＞
公益財団法人公益推進協会 浅井スクスク基金＜資金協賛・助成金＞
アドビ株式会社＜資金協賛・助成金, 物品協賛, プログラム運営協力＞
アマゾンジャパン合同会社＜資金協賛・助成金, プログラム運営協力＞
アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社＜資金協賛・助成金, プログラム運営協力＞
アライアンス・パースタイン株式会社＜資金協賛・助成金, プログラム運営協力＞
株式会社 ARIGATOBANK＜資金協賛・助成金＞
株式会社インフォマート＜資金協賛・助成金, プログラム運営協力＞
公益財団法人 SMBC グループ財団＜資金協賛・助成金＞
公益財団法人荏原島山記念文化財団＜資金協賛・助成金＞
春日井ホールディングス株式会社＜資金協賛・助成金＞
キャリアインキュベーション株式会社＜資金協賛・助成金＞
キュービーグループ マッチングギフト「QPeace」＜資金協賛・助成金＞
一般社団法人熊本県子ども食堂ネットワーク＜資金協賛・助成金, 物品協賛＞
社会福祉法人熊本県社会福祉協議会＜資金協賛・助成金＞
公益社団法人熊本善意銀行＜資金協賛・助成金＞
熊本大同青果株式会社＜資金協賛・助成金＞
コクヨ株式会社＜資金協賛・助成金, 物品協賛＞
ザ・プロアクティブカンパニー株式会社＜資金協賛・助成金＞
サンエックス株式会社＜資金協賛・助成金＞
株式会社 JSOL＜資金協賛・助成金, 物品協賛, プログラム運営協力＞
株式会社 SHIFT AI＜資金協賛・助成金＞
住友重機械工業株式会社＜資金協賛・助成金＞
住友商事株式会社＜資金協賛・助成金＞
一般社団法人生命保険協会神奈川県協会＜資金協賛・助成金＞

株式会社セールスフォース・ジャパン＜資金協賛・助成金, プログラム運営協力＞
セントラル短資FX株式会社＜資金協賛・助成金, 物品協賛＞
大研バイオメディカル株式会社＜資金協賛・助成金＞
大丸松坂屋百貨店労働組合東京支部＜資金調達・助成金＞
公益財団法人東京コミュニティー財団ゆずりは基金＜資金協賛・助成金＞
TOKYO AMERICAN CLUB＜資金協賛・助成金＞
株式会社東京スター銀行＜資金協賛・助成金, プログラム運営協力＞
鯨あらい＜資金協賛・助成金, プログラム運営協力＞
日本オラクル株式会社＜資金協賛・助成金, プログラム運営協力＞
株式会社ニューライトポタリー＜資金協賛・助成金＞
株式会社 NEXT＜資金協賛・助成金＞
ネットワンシステムズ株式会社＜資金協賛・助成金＞
端数倶楽部(富士フイルムビジネスイノベーション ボランティア団体) ＜資金協賛・助成金＞
バーニソン合同会社＜資金協賛・助成金＞
公益財団法人パブリックリソース財団＜資金協賛・助成金＞
公益財団法人パルシステム若者応援基金＜資金協賛・助成金＞
ピクテ・ジャパン株式会社＜資金協賛・助成金＞
一般社団法人ひとり親家庭福祉会ながさき＜資金協賛・助成金＞
BIPROGY 株式会社＜資金協賛・助成金＞
BIPROGY グループ社会貢献クラブ「ユニハート」＜資金協賛・助成金＞
平田機工株式会社＜資金協賛・助成金＞
プリモグローバルホールディングス株式会社＜資金協賛・助成金, プログラム運営協力＞
株式会社フロンティア技研＜資金協賛・助成金＞
ヘンケルジャパン株式会社＜資金協賛・助成金＞
有限会社本田興業＜資金協賛・助成金＞

マナーコンシェルジュ税理士法人＜資金協賛・助成金＞
三井住友海上あいおい生命保険株式会社＜資金協賛・助成金＞
三井住友DSアセットマネジメント株式会社＜資金協賛・助成金, プログラム運営協力＞
公益財団法人三菱財団＜資金協賛・助成金＞
三菱食品これらの100年基金＜資金協賛・助成金＞
三菱UFJ信託銀行株式会社＜資金協賛・助成金＞
三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社＜資金協賛・助成金＞
有幸建設株式会社＜資金協賛・助成金＞
外国法共同事業法律事務所リンクレーターズ＜資金協賛・助成金, プログラム運営協力＞
株式会社重慶飯店(ローズホテル横浜)＜資金協賛・助成金＞

物品提供プログラム運営協力など

株式会社アーバンファーム八王子＜物品協賛・プログラム運営協力＞
社会福祉法人愛光学園＜プログラム運営協力＞
藍の村観光株式会社＜プログラム運営協力＞
株式会社 AOKI＜物品協賛＞
有限会社石川商店＜物品協賛＞
犬のしつけ HAGU＜プログラム運営協力＞
岩井コスモ証券株式会社＜物品協賛＞
WeSupport Family＜物品協賛＞
株式会社ウカ＜プログラム運営協力＞
特定非営利活動法人えんじゅく＜ファンドレイジング支援, 組織運営支援＞
特定非営利活動法人おもしろ子どもセンター＜プログラム運営協力＞
岡三証券株式会社＜物品協賛＞
OSUSO＜ファンドレイジング支援＞
おてらおやつクラブ＜物品協賛＞
ORANGE WALK2025＜ファンドレイジング支援＞
カーブス横浜伊勢佐木町＜物品協賛＞
花王株式会社＜物品協賛＞
割烹 日浦屋＜プログラム運営協力＞
カルビー株式会社＜プログラム運営協力＞
着付け隊＜プログラム運営協力＞
ギャップジャパン株式会社＜プログラム運営協力＞
Goodera＜物品協賛＞
熊本市消防局中央消防署＜プログラム運営協力＞
グランド ハイアット 東京＜プログラム運営協力＞
グンゼ株式会社＜物品協賛＞
こうご動物病院＜プログラム運営協力＞
国際自動車株式会社＜プログラム運営協力＞
子どもサポート証券ネット＜物品協賛＞
認定NPO 法人こまちぶらすく＜プログラム運営協力＞
特定非営利活動法人サービスグラント＜組織運営支援＞
サイボウズ株式会社＜環境設備支援＞
NPO 法人サニースマイル＜プログラム運営協力＞
株式会社 Sun Asterisk＜環境設備支援＞
三協社労士行政書士事務所＜プログラム運営協力＞
株式会社三文サービス＜プログラム運営協力＞
シチズン時計株式会社＜物品協賛＞
下高井戸シネマ＜プログラム運営協力＞
一般社団法人ジャパン・コスメティックセンター＜物品協賛＞
ShortCakeCompany＜プログラム運営協力・物品協賛＞
株式会社 SKLO＜プログラム運営協力＞
株式会社スリムビューティハウス＜プログラム運営協力＞
認定NPO 法人セカンドハーベスト・ジャパン＜物品協賛＞
特定非営利活動法人セカンドリーグ神奈川＜物品協賛＞
世田谷区社会福祉協議会＜物品協賛＞
株式会社セレス CERES INC.<ファンドレイジング支援＞
社会福祉法人洗心福祉会鏡保育園＜プログラム運営協力＞

株式会社 ZOZO＜物品協賛, プログラム運営協力＞
有限会社園田電設＜プログラム運営協力＞
寶紙業株式会社＜プログラム運営協力＞
株式会社武井工務所＜プログラム運営協力＞
社会福祉法人たちばな会たちばなこども園＜プログラム運営協力＞
株式会社立飛ホスピタリティマネジメント＜プログラム運営協力＞
公益財団法人つなぐいのち基金＜物品協賛＞
株式会社ディスタント・ビュー＜プログラム運営協力＞
東京善意銀行＜物品協賛＞
TOPPANホールディングス株式会社印刷博物館＜プログラム運営協力＞
株式会社ナチュラルスタンス＜プログラム運営協力＞
株式会社七十八＜物品協賛＞
西九州警察犬訓練所＜プログラム運営協力＞
日本自動車ア株式会社＜プログラム運営協力＞
日本証券業協会＜物品協賛＞
日本郵便株式会社＜プログラム運営協力＞
株式会社 ノンストレス＜プログラム運営協力＞
公益財団法人ハーモニィセンター＜プログラム運営協力＞
ハイアット セントリック 銀座 東京＜プログラム運営協力＞
株式会社ハウスレッシュ＜ファンドレイジング支援＞
株式会社パソナグループ＜環境設備支援＞
株式会社バリューブックス＜ファンドレイジング支援＞
一般社団法人バンクフォースマイルズ＜物品協賛＞
株式会社ピ・メークヴァン・ペール佐賀店＜プログラム運営協力＞
PwC Japan グループ＜プログラム運営協力, 環境設備支援＞
日野・子どもと家族法律事務所＜プログラム運営協力＞
富士フイルムビジネスイノベーション株式会社＜プログラム運営協力＞
BEAUTY SARON ふるかわくプログラム運営協力＞
株式会社 Fate＜プログラム運営協力＞
フードバンク熊本＜物品協賛＞
一般社団法人フードバンクママトコ＜物品協賛＞
Benevity＜ファンドレイジング支援＞
株式会社ベネフィット・ワン＜ファンドレイジング支援＞
ベルフレッシュ株式会社＜プログラム運営協力＞
ホンダカーズ佐賀株式会社＜プログラム運営協力＞
マネックス証券株式会社＜物品協賛＞
株式会社ミサワ＜物品協賛＞
三菱食品株式会社＜物品協賛＞
有限会社宮田徳彦農場＜物品協賛＞
株式会社 Musefactory＜プログラム運営協力＞
有限会社ミュージズブランニング＜プログラム運営協力＞
社会福祉法人みらいのそら児童発達支援センターまんまる＜プログラム運営協力＞
株式会社メテム＜環境設備支援＞
株式会社 more＜プログラム運営協力＞
モルガン・スタンレー・グループ株式会社＜物品協賛＞
株式会社ヨコオ＜物品協賛＞
横浜市消防局 金沢消防署＜プログラム運営協力＞
横浜シネマリン＜プログラム運営協力＞
公益財団法人横浜YWCA＜プログラム運営協力＞
LINE ヤフー株式会社 (Yahoo !ネット募金)＜ファンドレイジング支援＞
楽天証券株式会社＜物品協賛＞
株式会社楽堂＜プログラム運営協力＞
Lavie 合同会社＜プログラム運営協力＞
株式会社ラフター＜プログラム運営協力＞
竜之介動物病院＜プログラム運営協力＞
ロファール商会株式会社＜プログラム運営協力＞
一般社団法人若草プロジェクト＜物品協賛＞
株式会社和多屋別荘＜プログラム運営協力＞
ワンワンランド YOU 佐賀店＜プログラム運営協力＞

企業・団体

165

会計報告

(2026年3月31日現在)

活動計算書

(単位：円)

経常収益	
受取会費	952,000
受取寄付金	121,206,132
受取助成金	69,777,888
事業収益	152,093,994
その他収益	313,409
経常収益計	344,343,423

経常費用	
事業費	人件費 164,394,234
	その他費用 99,929,884
管理費	人件費 27,267,452
	その他費用 6,041,007
経常費用計	297,632,577

当期経常増減額	46,710,846
---------	------------

貸借対照表

資産の部	
流動資産	
現金・預金	158,159,643
未収金	21,104,598
棚卸資産	24,321
貯蔵品	57,000
前払費用	2,435,424
立替金	14,970
流動資産合計	181,795,956

固定資産	
有形固定資産	38,914,212
無形固定資産	2,100,543
その他の資産	3,532,000
固定資産合計	44,546,755

資産合計	226,342,711
------	-------------

負債の部	
流動負債	
未払金	25,747,839
前受金	1,179,270
預り金	2,870,725
未払法人税	472,300
未払消費税等	937,100
流動負債合計	31,207,234

固定負債	
長期借入金	350,000
受入保証金	340,000
奨学金引当金	1,050,000
特別奨学金引当金	1,460,000
固定負債合計	3,200,000

正味財産の部	
指定正味財産	15,643,648
一般正味財産	176,291,829
正味財産合計	191,935,477

負債及び正味資産合計	226,342,711
------------	-------------

(単位：円)

団体の財務状況について

2025年度は、法人の財務基盤強化に重点的に取り組んだ一年となりました。前年度に北海道からの委託事業が終了したことなどから、期初の段階では収支悪化への懸念があり、法人全体で支出の見直しを進めました。既存職員が複数の役割を担いながら業務効率化と生産性向上に取り組むことで、組織一丸となった経営改善を進めることができました。

その結果、当初想定を上回る収支改善が実現し、約4,500万円の黒字を計上することができました。ただし、この結果は事業収益のみで達成されたものではなく、大口寄付や助成金など外部資金の支えによる部分が大きかったことも事実です。これらの要素がなければ赤字となる可能性もあったことから、現時点で安定的な財務運営が確立されたと評価できる段階には至っていません。

また、社会的養護自立支援拠点事業をはじめとする主要事業は、利用者支援の必要性が高まる一方で、収益構造上、大幅な収入増加を見込みにくいという課題を抱えています。そのため、事業継続に必要な内部留保を確保しつつ、寄付・助成金・受託事業など複数の財源を組み合わせた運営を継続していく必要があります。

一方で、クラウドファンディングによる約600万円の寄付獲得や新たな受託事業の獲得は、法人の活動に対する社会的な理解と期待の広がりを示す成果となりました。2026年度は職員の処遇改善や人材確保への投資を進める予定であり、2025年度に得られた財務的な余力を活用しながら、支援の質の向上と持続可能な組織運営の両立を目指していきます。



管理チーム長
百地真奈

活動のあゆみ

ブリッジフォースマイルの活動は、多くの方に支えられています。

【プログラム利用者数】

2025 年度

2,178人

【プログラム利用施設 / 里親数】

2025 年度

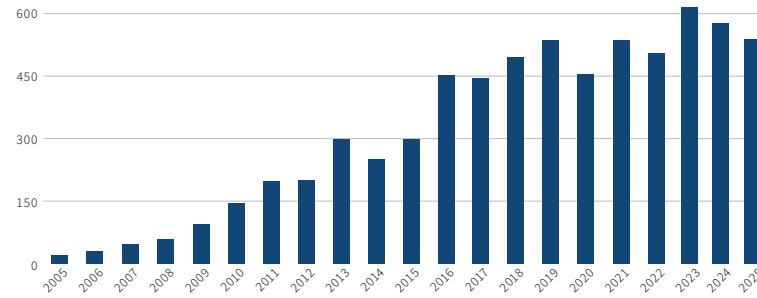
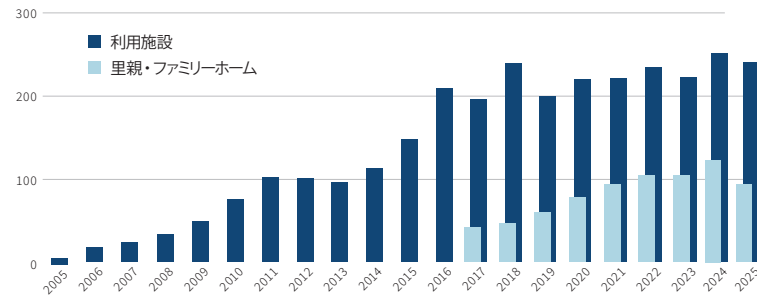
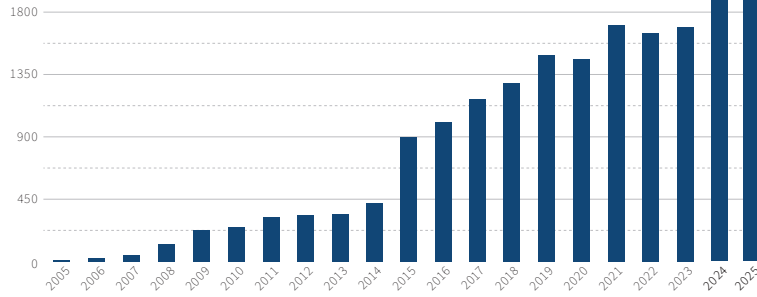
利用施設 242 里親・ファミリーホーム 96

利用施設内訳：児童養護施設190、自立援助ホーム43、児童心理治療施設6、児童自立支援施設1、母子生活支援施設2

【ボランティア登録者数】

2025 年度

533人



【スキルアップ研修】実施回数104回 参加者のべ770人

【施設職員・里親向けセミナー】実施回数 1回 参加者のべ 36人

【施設職員勉強会】実施回数 11回 参加者のべ958人

【江戸川区研修運営】運営支援回数17回 参加者のべ330人（江戸川区行政受託「職員の研修及び人材育成管理業務」）

団体概要

名称	特定非営利活動法人ブリッジフォースマイル（東京都認定NPO4生都管第1117号）	
URL	https://www.b4s.jp	
Email	info@b4s.jp	
本部	東京都港区南青山3-1-30 PASONA SQUARE	☎ 03-6842-6766
横浜オフィス	神奈川県横浜市西区高島2-5-5-203	☎ 045-548-8011
佐賀オフィス	佐賀県佐賀市駅南本町5-5-506	☎ 0952-26-8166
熊本オフィス	熊本県熊本市中央区南千反畑町13-5	☎ 096-288-4627
北海道オフィス	北海道札幌市豊平区豊平5条3丁目2-27-C3	
世田谷オフィス	東京都世田谷区北沢2-10-15-614	☎ 03-6407-0901
秋葉原オフィス	東京都台東区柳橋1-6-2-401	☎ 090-2016-4175

役員（2026年6月30日現在）

理事 林恵子（理事長）、菅原亜弥（副理事長）、武田智成、鈴木匠、瀬瀬順史、川尻未来、豊田美紀、鈴木隆太、永積祐子、石本忠次、
監事 藤田正男

会員数など（2026年3月31日現在）

事務局スタッフ 65人（常勤53人）／正会員 23人／継続寄付会員数 535人